

19

3-1288

0020

0021

極東興業團概要

(大正十四年一月)

第一、團體成立年月日

大正八年一月十九日

第二、團體規約如左

第一、極東興業團規約事項

一、本團體ハ西北利亞經濟援助ノ趣旨ニ基キ東部西北利亞及北滿洲ニ於テ各種ノ事業及資源ヲ調査シ事業復興並ニ産業ノ開發ヲ促進スルヲ目的トス

二、團體員ハ各自互ニ提携シ競争ヲ避クルコトニ努ムヘシ

三、本團體ニ於テ既設事業ノ譲渡若ハ共同經營ニ關スル申込ヲ受

ケ又ハ新規事業ノ着手ヲ適當ト認メタルトキハ目論見書ヲ作リ團體員全部ニ協議ノ上其實行法ヲ定ム

四、前條協議ノ結果本團體ニ於テ其事業ニ當ルヲ不適當ト認メタルトキハ先ツ團體員中特ニ希望スルモノヲシテ之ニ當ラシムヘク團體員中希望者ナキトキハ他ニ適當ノ企業者ヲ求メテ協議スヘシ

五、本團體ニ於ケル協議ノ結果株式会社組織ニ依リ經營スルヲ適當ト認メタル事業ニ付テハ可成團體員全部又ハ一部ニ於テ之カ發企人トナリ會社ノ設立ヲ圖ルヘシ

六、團體員ハ其協議ニ依リ各自資金ヲ融出スヘシ
本團體ノ目論見ニ係ル事業ヲ引受タル者ハ其調査ニ要シタル實費及報酬ヲ仕拂フモノトス

3
ケ
1

大正十四年六月十五日

3

- 七、本團體ニ於テ團體外ノ者ヨリ調査ノ依頼ヲ受ケタルトキハ
本團體ハ之ニ應スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ依頼者ハ調査料ヲ仕拂フモノトス
八、本團體ニ幹事若干名ヲ直ク幹事ノ選任等ニ關スル事項ハ團
體員協議ノ上別ニ之ヲ定ム
九、本團體ハ調査員ヲ僱用シ幹事ノ指揮ノ下ニ調査ニ従事セシ
ム
一〇、幹事ハ調査ノ結果ヲ其都度遅滞ナク書面又ハ口頭ヲ以テ各
團體員ニ報告シ必要ノ場合ニ於テハ團體員ノ總會ヲ召集シ
其ノ議ニ附スヘシ
一一、團體員ノ總會ハ少クとも毎月一回幹事中之ヲ召集ス
一二、團體員二名以上ヨリ團體員ノ總會ノ改選ノ請求アリタルト

4

- キハ幹事ハ遅滞ナク團體員ノ總會ヲ召集スヘシ
一三、本團體ハ其調査及事業計畫ニツキ常ニ關係官廳及西比利亞
經濟援助委員會ト密接ナル聯絡ヲ保ツヘシ
第二、收府ニ對スル希望條件
團體成立ノ上ハ收府ニ於テハ東部西比利亞及北滿洲ニ於ケル事
業ノ開發ニツキ專ラ本團體ヲ援助シ且本團體ヲシテ其計畫並ニ
實行ノ衝ニ當ラシムル方針ヲ決定セラレタキコト
前記第一、收府ニ對スル希望條件ハ大正八年一月十八日ノ閣
議ニ於テ此ノ趣旨ヲ承認セラレタリ
因ニ團體成立當時（大正八年一月）ニ於ケル團體員如左
總理………原 敬
外務………内田康哉
内務………床次竹二郎
大藏………高橋是清

陸軍……田中義一
司法(兼)……原敬
農商務……山本達雄
鐵道……元田肇
第三團、體、員

海軍……加藤友三郎
文部……中橋徳五郎
逓信……野田卯太郎

三井代表者
久原代表者
住友代表者
大倉代表者
高田代表者
原富太郎
南滿洲鐵道株式會社

三菱代表者
古河代表者
藤田代表者
安田代表者
安川代表者
鈴木商店
東洋拓殖株式會社

第一銀行
第五銀行
第十銀行
日本興業銀行
第一銀行
第三銀行
第十四銀行
銀行
銀行
銀行

第三 幹事

一、設立當時ノ幹事氏名(イロハ順)

井上準之助(正金)
早川千吉(三井)
門野重九郎(大倉)
中島久昌(古河)
木村久壽雄太(三菱)

第四 關隘ノ爲シタル主ナル事項
一、西伯利亞鐵道及森林ノ調査ノ件

大正八年政府ノ内意ヲ受ケ西伯利亞ニ於ケル鐵道、森林及之ニ關聯スル資源開發ノ目的ヲ以テ官民合同ノ組織ニヨリ一大調査部隊ヲ派遣シ數十萬圓ノ費用ト多大ノ苦心トヲ以

三、現任幹事氏名（イロハ順）

門野重九郎（大倉）
常任幹事 崎正助

藤沢政次郎（三井）

兒玉謙次（正金）

齋藤浩介（久原）

木村久壽彌太（三菱）

テ遂ニ空前ノ大調査ヲ敢行セリ
因ニ本調査ニ参加セルモノ如左
（鐵道ノ部）

三井鐵道會社 三菱會社

古河台名會社 大倉鐵道會社

久原鐵道會社 鈴木商店

高田商會 住友會社

明治鐵道會社 廣田鐵道會社

貝島商業會社

（以上興業公司組合員）

（四）森林ノ部
三井物産會社 三菱會社

富士製紙會社

秋田木材會社

南滿洲鐵道會社

二、日露台辦會組織ニ關スル協商ノ件

當時在湘鹽カムスコ政府極東總督及民政長官ヨリ日露台辦會社設立ノ提議アリタルヲ以テ當國代表トシテ神崎正助、古田慶三ノ兩氏ヲ湘鹽ニ簡派シ親シク露國當局ト數次ノ會商ヲ遂ケ同年十月三十日付ヲ以テ北樺太沿海州及黑龍州内ニ於ケル嶺峯、森林業、鐵道及鹽業並ニ是等ニ附帶スル事業ノ經營及交通機關ノ施設ヲ目的トスル資本金壹億圓ノ日露合辦株式會社ノ組織ニ關スル假契約案ヲ協定シ當日ヨリ當方ニ對シ前記事業ニ對スル優先權ヲ附與セラレタルモ其後露國政變相踵テ

起リ今日迄未タ右計劃實現スルニ至ラス
ミデカストリー森林事業經營ニ關スル調査ノ件

次テ大正十年臨哈陸州對岸デカストリ地方ノ森林拂下許可ノ内意ヲ受ケ其事業着手ノ第一歩トシテ大正十一年四月ヨリ該事業地ニ於ケル森林ノ經濟的價值ヲ査定ノ爲メ資金（六万三千圓）ヲ繰出シ調査隊ヲ特派シ各方面ニ亘リ精細ナル調査ヲ完了シ愈々該地事業ニ着手セントスル時ニ當リ遽ニ對岸撤兵ノ廟議決定セル爲メニ本計劃モ亦其實行中止ノ已ムナキニ至レリ

因ニ本計劃ニ加入セルハ左記二十一社ナリ

三

三義商學株式會社

久原鑛業株式會社

極東興業團

待シタル次第ナルガ道般於北京日露協商ノ成立ヲ見ルニ至リタルハ是ニ爲邦家慶賀ニ堪ヘザル處ニシテ是ヨリ進ンデ協商ノ精神ヲ活用シ日露相提携シ以テ兩國ノ經濟的連鎖ヲシテ益々強固ナラシムルハ當ニ邦家ニ對スル國民共同ノ責務ナルト共ニ當團ハ特ニ其ノ責任ノ極メテ重大ナル事ヲ感知スルモノナリ

以上

爾來日露交渉ハ不幸停頓ニ停頓ヲ重ネ何等當團トシテ活躍スルノ機會ニ到達セス。只管國交恢復ノ一日モ速カナランコトヲ期

藤田銀業株式會社	台名會社大倉組
台資會社高田商會	台名會社鈴木商店
東洋拓殖株式會社	北海道炭礦汽船株式會社
物産江製紙株式會社	富士製紙株式會社
樺太工業株式會社	東洋燐寸株式會社
三井礦山株式會社	三井物産株式會社
王子製紙株式會社	秋田木材株式會社
福井縣對岸拓殖興業會社	大日本木管株式會社
大和田莊七	石川玄三
平野清五郎	